

処理水放出初回分完了

東電 7800トン 今月末にも再開

東京電力は11日、福島第

1原発の処理水海洋放出で、初回分として計画していた約7800トンの放出を完了したと発表した。設備や運用にトラブルはなく、周辺の海水や魚に含まれる放射性物質トリチウムの濃度も異常は確認されなかった。東電は「問題なく安定的に放出が完了できた」としている。

2回目も約7800トンを放出する予定で、処理水の濃度の確認や設備点検の後、早ければ今月末にも開

始する。

東電は8月24日から9月10日までタンク内の処理水を放出した後、11日午後配管内に残っていた処理水を真水で押し流す作業を終えた。

東電の計画では処理水を大量の海水で薄め、トリチウムの濃度を国の基準の40分の1となる1兆当たり1500ベクレル未満にして原発の沖約1キロの海底から放出する。初回の放出濃度は200ベクレル程度だった。

2023年度は4回放出

し、処理水の総量約3万1200トに含まれるトリチウムは約5兆ベクレルとなる。年

間の放出量は22兆ベクレル未満に制限する。

東電、環境省、水産庁、福島県は原発周辺で採取した海水や魚のトリチウム濃度を分析している。東電が8月31日に採取した海水から1兆当たり10ベクレル検出されたほか数カ所でも検出されたが、東電は「安全上の問題は無い」としている。